

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市若林図書館		
2 指定管理者	株式会社ヴィアックス		
3 指定期間	平成30年4月1日～令和5年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 173,126人団体〔個人:172,889人、団体・文庫:237団体〕(前年度比 109.9%) 令和3年度 157,482人団体〔個人:157,328人、団体・文庫:154団体〕(前年度比 101.9%) 令和2年度 154,486人団体〔個人:154,318人、団体・文庫:168団体〕(前年度比 85.1%)		
	《事業》 仙台市若林図書館の運営管理		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額		
	・ 指定管理者に支払った費用	97,756千円 (97,154千円)	
	・ その他市が負担した費用	14,972千円 (29,402千円)	
	《収入》		
	・ 使用料収入	0千円 (0千円)	
	・ その他収入	30千円 (24千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・利用者アンケート 実施期間:令和4年12月10日～12月23日 ・利用者懇談会 開催日:令和5年2月16日		

## 二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護に努めるとともに図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底している。危機管理マニュアルを作成し、必要な研修を実施している。 災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。また、カウンターでは持ち寄られた紙袋を本の持ち帰り用に希望する利用者へ提供したり、館内の子ども用トイレに節水を呼びかける掲示をする等、環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	利用者からの意見を受けて、汚損・破損資料の買い替えや修理・補修、書庫等に複数所蔵している場合は入れ替えを行うなどして、誰もが気持ちよく利用できるための工夫について、前年度以上に積極的に行った。 職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、障害者対応研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、著作権法に関する研修や、ブックトーク研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	来館が困難な利用者に対する非接触型のサービスとしてオンラインによるおはなし会を開催してその需要に応えるとともに、図書館外でもおはなし会を開催するなど、コロナ禍で減少した利用者数の回復に努めている。 また、震災の記憶を継承し風化を防止するため、3.11オモイデアーカイブと連携して定点記録写真の巡回展を開催した。加えて若林区の農業地帯としての成り立ちに着目し、せんだい農業園芸センターみどりの杜と連携して野菜づくりに関連した講演会を行っている。 区内児童館や家庭健康課と連携し、乳幼児と保護者向けのおはなし会や、蒲町中学校「紙芝居研究会」の生徒向けに紙芝居の基本的な演じ方についての講習を行い、本を通じて親子がコミュニケーションを深める機会の提供や、中学生の図書館利用促進に貢献した。	18/16

### 三 評価総括

《指定管理者（株式会社ヴィアックス）による自己評価》
<p>前年度に続き令和4年度もコロナ禍の中での事業実施ではあったが、感染拡大防止対策を講じたうえで若林図書館の地域特性を活かして「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。中でも「せんだい農業園芸センターみどりの杜」と連携した土づくりについての講演会では、参加希望者が定員を上回るほどの盛況ぶりを見せ、農業への関心の高さが窺えた。</p> <p>震災関連事業では「3.11オモイデアーカイブ」と連携し、東日本大震災後を追った写真巡回展を共催し、被害の大きかった仙台市東部沿岸地域の変化を知ってもらう契機とした。定例事業としては、非来館型事業として開始したオンラインおはなし会を定例化し、コロナ禍という理由だけでなく、来館しづらい方も参加できる事業としたことで潜在的な利用者を獲得できた。加えて「文学散歩」「スポーツ講演会」など幅広い年齢層を対象に事業を行った。特に「仙台七夕関連講演会」では、長年七夕飾りの制作に携わる方より、その歴史や想いをお話しいただき、新たな利用者の獲得につながった。また若林図書館で活動する読み聞かせボランティア向けにステップアップ講座を開催し、図書館との連携を強化した。</p> <p>職員研修では全職員を対象に障害者サービス研修、人権啓発研修を実施し、「市民一人ひとりに利用しやすい図書館」として、あらゆる人に使いやすい図書館サービスの推進に努めたほか、「自らの変革を進める図書館」として、公共図書館が地域コミュニティにおける多様なアセット（資産）の利活用を議論するシンポジウムに参加し、今後の自館運営の参考とした。</p> <p>施設運営管理面では、資料の利用状況等を鑑み継続的に新たな資料を受け入れると共に、開架と書庫資料との入れ替えを行うなど、利用環境の維持に努めた。</p> <p>以上のように、市民の学びを支える生涯学習施設としての図書館の役割を果たすことができたと思う。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>地域の歴史や魅力を発信する取り組みとして、地域の団体、施設等と連携し、様々な事業を行った。特に、3.11オモイデアーカイブとの連携事業の東日本大震災関連の写真展では、定点撮影した震災後の記録写真などを展示し、県内外の参加者から震災後の様子を知ることができる展示だった等と好意的な意見が多く、震災の記録と教訓を広く伝えるための効果的な事業だと評価できる。</p> <p>また、せんだい農業園芸センターとの連携事業の野菜を育てるための土づくりに関する講演会は、募集開始当日に定員となり、参加者から質問が多く出るなど関心の高さがうかがえた。今後の継続を望む声も多くあり、利用者のニーズに合った事業だと評価できる。</p> <p>子ども読書活動推進に資する事業として、区内児童館や家庭健康課と連携し、乳幼児と保護者を対象としたおはなし会を実施し、乳幼児と保護者が読書に親しみ、本を通じてコミュニケーションを深める機会を提供した。また、蒲町中学校「紙芝居研究会」に紙芝居の基本的な演じ方について講習を行い、中学生の図書館利用促進に貢献した。</p> <p>前年度に引き続き、市民一人ひとりに利用しやすい図書館を推進する取り組みとして、「オンラインおはなし会」を実施した。前年度は2回実施のところ、今年度は3回実施し、3回目の参加者はこれまでで一番多い人数となった。事業を実施するにあたり、担当職員が「オンラインおはなし会研修」を受講し、参加者目線のアプリの使い方や、絵本や手遊び等の見せ方等オンラインで実施するうえでの留意点等を学んでいる。</p> <p>サービス改善の取り組みとして、利用者から「汚れた本はさわりたくない」などの声を受けて、汚損・破損資料の買い替えや修理・補修、書庫等に複数所蔵している場合は入れ替えを行うなどして、誰もが気持ちよく利用できるための工夫について、前年度以上に積極的に行った。</p> <p>職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、障害者対応研修など、全職員を対象に研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、著作権法に関する研修や、ブックトーク研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、若林図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市広瀬図書館		
2 指定管理者	丸善雄松堂株式会社		
3 指定期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日		
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 117,298人団体〔個人:116,911人、団体・文庫:387団体〕(前年度比 108.8%) 令和3年度 107,836人団体〔個人:107,546人、団体・文庫:290団体〕(前年度比 103.5%) 令和2年度 104,218人団体〔個人:103,955人、団体・文庫:263団体〕(前年度比 84.0%)		
	《事業》 仙台市広瀬図書館の運営管理		
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額		
	・ 指定管理者に支払った費用	56,100千円 (56,100千円)	
	・ その他市が負担した費用	8,350千円 ( 8,226千円)	
	《収入》		
	・ 使用料収入	0千円 ( 0千円)	
	・ その他収入	28千円 (19千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間:令和4年12月10日～12月23日 ・ 利用者懇談会 開催日:令和5年2月3日		

## 二 管理運営に係る評価 (モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を榴岡図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物、設備及び備品は適切に管理されている。複合施設全体で組織するごみ減量委員会に参加してごみの減量に努めており、利用者も巻き込んだ再利用・再使用の取り組みとして不要となったエコバッグ等を必要な人に提供するなど環境へ配慮した取り組みがなされている。	17/17
IV サービスの質の向上	館内表示について、利用者からの声を受けて、おはなしのへや入口に、配架している絵本の内容を表示した。また、細かい分類については色で区別することで、子どもから大人まで利用しやすい工夫を行っている。 職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、著作権法に関する研修や、レファレンス研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	読書普及活動に係る業務では、前年度に引き続き、職員おすすめの本の展示やヤングアダルト(YA)コーナーの本の展示などを通して、積極的な読書案内が行われている。また、令和4年度より、併設の広瀬市民センターでの市民向け講座等の開催時には、関連テーマ本の展示を行い、来館機会の創出を図っている。 自主事業において、「広瀬図書館の日」記念事業の館長講演会が好評で、受付開始30分で定員に達した。アンケートには継続で開催してほしいという声が多く、講演の様子は新聞にも掲載された。 仙台高等専門学校広瀬キャンパスとの連携事業において、夏休みに高専から講師を招いて行う小学生対象の工作会は定評があり、図書館のPRにも大きく貢献している。	18/16

### 三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>令和4年度の図書館運営は、コロナ禍が続く中、図書館サービスの充実と感染拡大防止の取り組みを両立させることを重視して図書館運営に取り組んだ。</p> <p>1. 基本業務は、図書館の基礎的サービスを着実に提供するための業務効率化に継続して取り組んだほか、隣接する宮城総合支所との連携・協力を一層進めることを通じて、市民の課題解決に役立つ図書館としてのサービスを充実させることができた。</p> <p>2. 自主事業は、館長講演会を「広瀬図書館の日」記念事業として継続して大きな反響を得るなど、年間事業参加者数は延べ5,628人に上った。また、令和3年度末に収載するコンテンツを拡大するなどリニューアルした「ひろせアーカイブ」事業では、地域施設や関係機関との連携などによりそのコンテンツを充実させることができた。</p> <p>3. 利用実績は、前年度比で利用者数/日（延べ人数）が17.9人増、貸出冊数/日が34.7冊増、返却冊数/日が30.4冊増といずれも増加した。なお、計算には令和3年度の開館日数として臨時窓口開設日（29日間）を加えた日数を用いた。</p> <p>4. 職員に対する教育研修は、内容に応じて対面での研修またはリモート研修を選択しながら積極的に参加し、研修報告書の作成などを通じた研修内容の共有についても継続して実施した。</p> <p>5. 運営の評価は、自己評価や市民図書館による定例監査を受けた。また、「利用者アンケート」を実施するとともに、図書館利用者等の意見・評価を得ることを目的とした「利用者懇談会」及び「ボランティア懇談会」を開催した。</p> <p>6. 施設管理は、「仙台市公共施設点検要綱」に基づく定期点検を適切に実施した。また、入居施設である広瀬文化センターとの緊密な連絡により効率的な施設管理を行うことができた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>自主事業において、「広瀬図書館の日」記念事業の館長講演会が好評で、受付開始30分で定員に達した。アンケートには継続で開催してほしいという声が多く、講演の様子は新聞にも掲載された。参加者は60代以上を中心に幅広い世代が参加し約6割が図書館の利用登録がない方だったことから、図書館の利用促進に効果的な事業だと評価できる。</p> <p>前年度に引き続き、読書普及活動に係る業務として、職員おすすめの本の展示やヤングアダルト（YA）コーナーの本の展示などを通して、幅広い世代の利用者に向けて積極的な読書案内を行っている。特に、職員おすすめの本の展示は、期間ごとに職員がテーマを設定して展示を行っており、利用者が様々な本に出会う機会を提供するとともに、テーマや展示方法によって貸出回数等の実績が出ることから職員の意欲向上と成長の機会となっている。</p> <p>仙台高等専門学校広瀬キャンパスとの連携事業において、夏休みに高専から講師を招いて行う小学生対象の工作会は定評があり、図書館のPRにも大きく貢献している。</p> <p>仙台市天文台との連携事業では、前年度の事業に追加して、移動式プラネタリウムを用いたおはなし会を初めて開催した。職員の工夫により企画内容の充実を図った点が評価できる。</p> <p>また、令和4年度の新しい取り組みとして、広瀬市民センターで市民向けの講座開催時に、市民センター利用者向けに関連テーマ本の展示を行い、来館機会の創出を図っている。</p> <p>職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、個人情報保護研修など、全職員を対象に研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、著作権法に関する研修や、レファレンス研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、広瀬図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局市民図書館

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市榴岡図書館	
2 指定管理者	丸善雄松堂株式会社	
3 指定期間	令和4年4月1日～令和9年3月31日	
4 施設の利用状況	《利用者数》 令和4年度 110,361人団体〔個人：110,256人、団体・文庫：105団体〕(前年度比 114.6%) 令和3年度 96,265人団体〔個人：96,178人、団体・文庫：87団体〕(前年度比 102.7%) 令和2年度 93,711人団体〔個人：93,619人、団体・文庫：92団体〕(前年度比 84.8%)	
	《事業》 仙台市榴岡図書館の運営管理	
5 収支の状況	《費用》 ( )は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 46,992千円 (45,232千円) ・ その他市が負担した費用 12,508千円 (12,132千円)	
	《収入》 ・ 使用料収入 0千円 (0千円) ・ その他収入 31千円 (18千円)	
6 利用者の声	《実施状況》 ・ 利用者アンケート 実施期間：令和4年12月10日～12月23日 ・ 利用者懇談会 開催日：令和5年2月10日	

## 二 管理運営に係る評価（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事を適切に行っている。また、サービスの質の向上や利用促進のための取り組みがなされている。	24/24
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況及び施設の開館状況は仕様書のとおり適切であり、指定管理料は適正に執行されている。 個人情報保護の取り扱いや図書館情報システムのセキュリティ対策を徹底し、事故防止チェックリストに基づき、事故や苦情等の事例を広瀬図書館と共有し、ヒヤリ・ハット集の充実を図っている。災害発生時の訓練は、関係機関と合同で適切に実施している。	30/30
III 施設・設備の維持管理	建物及び設備は適切に管理されており、毎日定時に館内を巡回し、事故・犯罪の未然防止に努めている。利用者から提供される紙袋を本の持ち帰り用に自由に利用してもらえるように設置するなど環境に配慮した取り組みもなされており、備品も適切に管理されている。	17/17
IV サービスの質の向上	館内表示について、入口付近の案内表示を従来のものに加え、外国人も利用しやすいように英語表記も入れて新しく作り直し、掲示している。書架分類の表示を色で区別し、ピクトグラムを加えるなど、様々な利用者が分かりやすいように工夫を行っている。 職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、個人情報保護研修など、全職員が参加する研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、レファレンス研修や、ブックトーク研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。	27/27
V 施設固有の基準	自主事業では、利用者の要望を受け、地域包括支援センターやハローワーク仙台と連携し、高齢者を対象とした健康や就職・就労に関する講座を開催し、利用者の要望を取り入れながら魅力的な企画を行っている。 ヤングアダルト(YA)世代に向けた読書活動支援の取り組みに力を入れており、中高生の「選書サポーター」が館内のポップを作成するなど、YA世代が本に親しみやすいための事業を行っている。	18/16

### 三 評価総括

《指定管理者（丸善雄松堂株式会社）による自己評価》
<p>1. 令和4年度は、新型コロナウイルスに向き合いながらも、感染対策を講じながら、指定管理者として「基本方針」と「仙台市図書館振興計画」に基づき、地域の教育機関や団体との連携を強化し、さらに利用者サービスの向上を図るとともに「地域に根差し、共に成長し続ける図書館」を目指して業務と自主事業を進めた。</p> <p>2. 自主事業は、前年度に引き続きSDGsの啓蒙を図る事業を展開し、さらに、YA世代に向けた講座と、地域包括支援センターと連携した高齢者向けの講座を実施することで、生涯学習を支援する基盤施設としての図書館の機能を果たした。子育て世代の利用が増えており、2・3歳児向けの定例おはなし会を月2回に増やすことで、絵本を通じたふれあい機会づくりの創出に努めた。</p> <p>3. 利用実績は、貸出冊数、返却冊数共に前年度比約112%と伸びている。また、登録者数も前年度比約105%と伸びており、自主事業や展示等による利用促進の効果が表れていると考える。</p> <p>4. 職員の教育研修は、オンラインの活用も含めて積極的に参加し、他都市の図書館ニーズの把握と、職員一人一人の技術向上に活用した。</p> <p>5. 施設管理は、引き続き文庫本への買替えを進めるとともに、閉架書庫の配置換えを行う等、限られたスペースを最大限活かしながら、資料の配置等工夫した。また、書架の案内表示にピクトグラムを活用し、さらにエレベーター付近に車椅子を設置する等、誰もが使いやすい図書館を目指した。新型コロナウイルス感染症対策は、前年度に引き続き、定期的なアルコール消毒と換気の徹底、定例おはなし会等については仙台市生涯学習支援センターと協力し実施した。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>利用しやすい図書館のための取り組みとして、館内表示について、入口付近の案内表示を従来のものに加え、外国人向けに英語表記も入れて新しく作り直すことや、書架分類の表示を色で区別し、ピクトグラムを加えるなど、職員のアイデアを活かしながら、様々な利用者に配慮した図書館づくりに努めた。</p> <p>自主事業では、利用者から高齢者向け事業の実施についての要望を受け、地域包括支援センターやハローワーク仙台と連携し、高齢者を対象とした健康や就職・就労に関する講座を開催した。アンケートでも継続して実施を希望する意見があり、多くの利用者に役立つ事業だと評価できる。</p> <p>前年度に引き続き、ヤングアダルト（YA）世代に向けた読書活動支援の取り組みに力を入れており、中高生の「選書サポーター」が館内のポップを作成するなど、YA世代が読書に親しみやすくするための事業を行っている。</p> <p>図書館の立地上、周辺に若い世代が多く住んでおり、図書館でも子育て世代の利用が増えていることから、家族で参加する事業について、回数を増やしたり、内容の充実を図っている。特に、「防災おはなし会」は防災をテーマとした大型絵本の読み聞かせのほかに、非常持ち出し袋の中身の確認を行うなど、実生活にも役立つ内容で、子どもと大人と一緒に楽しみながら参加できるよう工夫しており、評価できる。</p> <p>職員の教育・研修において、定例休館日に、接遇研修や、個人情報保護研修など、全職員を対象に研修を実施し、サービス水準の確保に努めている。また、レファレンス研修や、ブックトーク研修など、職員の資質向上のため、積極的に各種研修を受講している。</p> <p>以上、榴岡図書館の指定管理者は、施設の設置目的に沿って適切に管理運営を行うとともに、地域の施設等と連携しながら職員が工夫をして新しい取り組みや、魅力的な事業を実施し、サービス向上に貢献している点が大いに評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取り組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課(施設所管課):教育局市民図書館